

平成 30・31 年度 武蔵野市教育課題研究開発校

研究主題

外国語に慣れ親しみ、 すすんでコミュニケーションを図ろうとする 児童の育成 ～主体的な聞き手を育てる言語活動を通して～



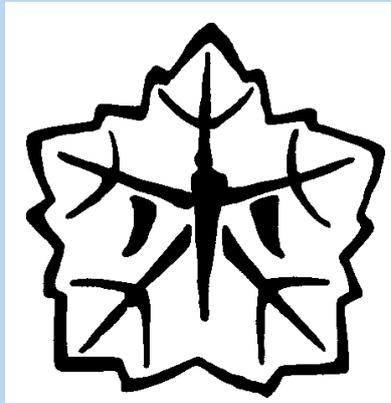
令和 2 年 1 月 24 日 (金)

武蔵野市立大野田小学校

所在地 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町 4-11-37

TEL/FAX 0422-51-0511/0422-53-8634

HP <http://oonoden-e.musashino-city.ed.jp/>



研究主題

外国語に慣れ親しみ、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～主体的な聞き手を育てる言語活動を通して～

研究仮説

外国語活動、外国語科において、既習事項や身に付けた語彙を使った様々な場面や状況での言語活動を経験することで、互いを理解するコミュニケーションの楽しさに気づき、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童が育つであろう。

目指す児童像

(1) 外国語に慣れ親しむ子 >>>知識及び技能に関する目標

- ・外国語や外国の文化にふれる活動を通して、自分の考えや気持ちを伝えたり、相手の考えや気持ちを真摯に受け止めたりする子

(2) コミュニケーションを図ろうとする子 >>>思考力、判断力、表現力等に関する目標

- ・コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、相手の話を聞き、必要な言語材料を選び、相手に伝わるよう、思考・判断しながら表現する子

(3) すすんで学習する子 >>>学びに向かう力、人間性等に関する目標

- ・自国に誇りを持ち、外国語や外国の文化に興味や関心をもって取り組む子
- ・相手をよく知ろう、相手を大切にしようとする思いをもって話を聞く子
- ・自分の気持ちや考え方を伝えようという思いをもって活動する子

言語活動とは

「自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる活動」

このような活動では、既習事項やリアクションワードを活用すること、「理由」を伝えることが重要だと考える。

主体的な
聞き手を育てる
言語活動

主体的な聞き手とは

- ・相手を大切に思い、相手の考えを知ろうと真摯に耳を傾ける聞き手
- ・知りたい内容や分からない内容については、質問したり、聞き返したりする聞き手
- ・伝わった内容については、頷いたり、繰り返したりするなど反応する聞き手

研究主題に迫るための3つの取組

① 「言葉の教育*」としての明確な位置付け 言語活動とのつながり

* 外国語における「知識及び技能」を育成し、言語活動とのつながりを図り、コミュニケーションを充実させることを「言葉の教育」と定義しました。

◆ 聞く（聴く）活動

- ・音を大切に扱うこと
- ・シチュエーションに合った場面で聞かせること
- ・言葉としての意味を意識させながら聞かせること
- ・外国語を聞いて反応する活動の設定

◆ 話す活動

- ・目的や場面、状況に応じた適切な言葉の使用
- ・「内容が伝わる音声化」を意識する。（誰に/何を/いかに伝え、どのような関係を築きたいのか）

◆ やり取り

- ・コミュニケーション（反応する活動）に使う基本的な表現方法の系統的な指導
- ・思いやリアクションが生まれる場面の設定

② ICT 機器の効果的な活用

- ・情報提示
- ・内容の焦点化
- ・共有化
- ・可視化
- ・映像、資料等の表現内容の吟味

③ 外国語教育におけるユニバーサルデザイン化（UD化）の推進

「児童一人一人の違いや多様さに応じて、人的、物的に支援を行うこと」

- ・学習の機会を公平にする工夫
- ・実態に応じた活動の工夫
- ・振り返りやすくするための工夫
- ・必要な情報がすぐに分かる工夫
- ・どの児童も認めるための工夫
- ・どの児童も興味をもてるような工夫
- ・活動の内容に合わせた空間の工夫

～授業の基本的な流れ（モデルプラン）とポイント～

単元名 第3学年 Let's Try!1 Unit8 "What's this? これなあに?"

- 〈板書計画〉
- 低・中学年では、文字中心ではなく、絵やイラスト、写真を活用し、見ただけで活動の流れが分かるようにします。表現については、どちらが話す内容か分かるよう色分けします。
 - 高学年では、主表現や単元で学ぶ単語に焦点をあてることに意識します。見えそうな既習表現を想起させ板書します。

Wednesday
May
8th 

単元の Goal
「ロングペア活動で
クイズ大会をしよう。」

Today's Goal: クイズを出し合おう。

Hello

Review

Introduction
(Warm Up)

Practice

Actiivity1

Actiivity2

まとめとふり返り



What's this?



Hint one. Fruits.
What's this?

Yes. That's right. 

 No, sorry. Hint two. Red.





Hint, please.

It's a/an ~.





 apple	 banana
 carrot	 panda
 rabbit	 elephant

<授業の基本的な流れ>

単元の Goal

常に黒板に単元のゴールを示し、学習の目的を明確にします。

単元のゴールは、動機付けだけでなく、単元最後まで意欲付けになります。ALT や地域人材、他学年との交流、他教科との関連を考えて設定します。

本時の Goal

(Today's Goal)

本時の目標を意識しながら、児童に伝わりやすい言葉に変えて提示します。教師と児童が、どのような姿が目標の達成につながるか共有します。

ピクチャーカード

ピクチャーカードなどの順番については、聞き慣れているものを上にしたり、逆に聞き慣れていないものを上にしたりするなど、目的に合わせて掲示します。写真やイラストに単語を加えて作成します。

Hello

これから外国語の学習が始まるという意識付けをします。日付や天気、曜日など実態に応じて慣れ親しんだ表現でのやり取りで導入します。

Review

前時に学んだ表現や、本時に使う既習事項などを振り返り、活用していくことを意識付けます。

Introduction(Warm Up)

本時で扱う表現や既習表現を使って内容を考えます。Small Talk は、基本的に HRT と ALT で行います。実態に応じて、ALT と児童、児童同士などで行うこともあります。

Practice

聞くことから始めます。音声に意識を向けさせるために、音声⇒写真やイラストの順で提示します。場面や相手を替え、伝え方を考えさせます。

Activity

児童が達成感を感じられるような工夫や手立てを考えます。アクティビティが2つある場合は、それぞれの関係、系統性を意識します。

まとめと振り返り

Goal の内容について自己評価します。友達のよさや感想も書かせ、本時の目標に迫る気付きは、全体で共有します。



実践報告 第6学年 “Let’s go to Italy.”

単元のGoal「おすすめの国を紹介し合い、行ってみたい国を見つけよう」(5時間)

第1次では行きたい国をインタビューし、第2次では、旅行会社のプランナーとしておすすめしたい国と理由を紹介した。おすすめの国を紹介する表現や尋ね方を知り、思いをもったコミュニケーションの楽しさを味わわせるよう計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- 言葉と絵や画像を結び付け、言葉の意味を意識させる活動
- シチュエーションに合わせて、内容や気持ちを表現させる活動



〈リスニング〉



〈伝え方をアドバイスし合う〉

ICTの効果的な活用

- 国名、国の位置、名所を関連付けられるよう地図と世界遺産の画像を提示
- 教師によるオリジナル動画でゴールを確認



〈世界地図と世界遺産〉



〈教師によるオリジナル動画〉

外国語教育におけるUD化

- 誰もが聞き手と話し手を同じ回数ずつ体験できる活動の設定
- デモンストレーション後に、活動の流れを簡単な外国語で質問



〈1対1のやり取り〉



〈流れの確認〉

〈成果〉

- 単元の導入にゴールを意識した動画を見せることにより、見通しをもたせたること、よい話し手や聞き手に気付かせることにつながった。
- おすすめする理由を考えたり調べたりする活動が、思いをもったやり取りにつながった。

〈課題〉

- ▲ゴールの活動は、友達同士で紹介し合った。しかし、もっと必要感のある場面を設定するためには、外部と連携したり、ALTの活用方法を工夫したりする。

実践報告 第5学年 “She can run fast. He can jump high.”

単元の Goal 「友達のできることを家族に伝えよう」(6時間)

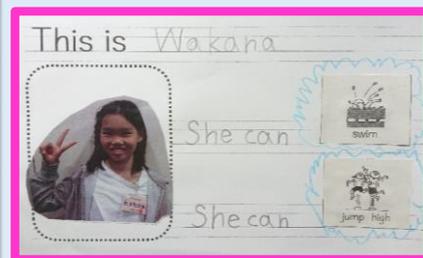
本単元で初めて、三人称を扱うことになる。児童の日常的な言葉のやり取りを想起させ、自分、直接の話し相手、話題に上る第三者の呼び方の位置付けを明確にし、区別ができるように単元を計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- もっと深く相手のことを知りたいと思わせるような場面設定
- 内容が伝わる音声化の意識



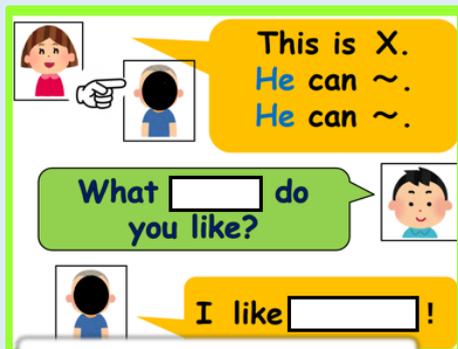
＜友達へのインタビュー＞



＜友達紹介の原稿＞

ICTの効果的な活用

- やり取りの見通しをもつためのスライド
- やり取りの様子をタブレットPCで撮影し、中間評価の場面で活用



＜やり取りの流れの提示＞



＜よいやり取りの動画＞

外国語教育におけるUD化

- 既習事項を繰り返し使う場面の意図的な設定
- 共感的に聞くためのポイントの明確化



＜既習事項の提示＞



＜よい聞き手のポイント＞

＜成果＞

- 場面設定を工夫することで、児童の自然な思いを引き出すことができた。
- 既習事項を多く活用することで、児童のやり取りが円滑にすすんだ。

＜課題＞

- ▲知らない相手について共感的に聞くことの指導が不十分だった。よい聞き手のモデルを動画で作成するなどして、繰り返し確認できるようにする。

実践報告 第4学年 “This is my favorite place.”

単元の Goal 「武蔵野市のお気に入りの場所を友達に紹介しよう」（4時間）

社会科「武蔵野市のようす」やプログラミング教育と関連付けて、気に入っている場所へ案内する活動を設定した。気に入った場所を理由とともに紹介し合うことで、自分たちの地域のおよさを再確認できるような単元を計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- 社会科の既習事項と関連付け、相手に伝えたいと思える場面を設定
- 紹介された場所について、自分の思いを伝えるリアクションワードの活用



〈社会科の教科書〉
「わたしたちの武蔵野市」より



〈思いを伝え合う〉

ICTの効果的な活用

- 意欲や見通しをもたせるための、教師によるオリジナル動画の活用
- 場면을イメージしやすい黒板掲示



〈オリジナル動画〉



〈アクティビティの様子〉



〈場면을イメージしやすい掲示〉

外国語教育におけるUD化

- 実際にある身近な店や建物、場所を題材にしたアクティビティの設定
- 振り返りカードによる学んだことの明確化

外国語活動ふりかえりカード U8		4年 組 第	名前 ()			
たん元のゴール ○お気に入りの場所をしようかいしよう						
目標	ゴール	チェック項目	よくできた	できたかった		
/	○世界のことを知ろう。	世界と日本、武蔵野市の共通点や違うところについてできる。	4	3	2	1
/	○世界の日本の地域の様子を知ろう。	世界の日本の各都道府県や武蔵野市の各町村の位置を知ろう。	4	3	2	1
/	○武蔵野市のお気に入りの場所を友達に伝えよう。	お気に入りの場所の言い方がわかる。 - Let's go to my favorite place. - Go straight → Turn (right/left) - Stop. → This is ~.	4	3	2	1
/	○武蔵野市のお気に入りの場所を発表しよう。	お気に入りの場所の発表の仕方がわかる。 - This is my favorite place.	4	3	2	1

〈学んだことの明確化〉

〈成果〉

- 活動に取り組む意欲や見通しをもたせるための動画の活用が有効だった。
- 他教科と関連付け、教科等横断的に外国語活動を位置付けたことが意欲につながった。

〈課題〉

- ▲単元の意欲付けには成功したが、今後はより相手に伝えたいくなるようなアクティビティを工夫する。

実践報告 第3学年 “I like blue.”

単元の Goal 「好きなものを友達と伝え合おう」（4時間＋学級活動1時間）

“I like ~.” を使った表現をもとに、「好きなものを伝え合うこと」を題材とした。ふれあい月間とも関連付けて、やり取り後の気持ちを相手に伝えたり、活動の中で友達の良いところを見付けたりして、相互理解が深まるよう計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- 質問内容を正確に聞き、相手に伝えることを意識化（聞く活動、話す活動）
- 国語科「インタビュー活動」との関連付け（やり取り）



＜HRT と ALT によるモデル＞



＜友達へのインタビュー＞



＜ワークシートの拡大提示＞

ICT の効果的な活用

- ワークシート、振り返りカードを拡大し、手順を確認
- 振り返り内容の共有と、ゴールの再確認

外国語活動ふりかえりカード□U4		3年□組□番□	名前 (□□□□□□□□□□□□□□)
だん元のゴール すきなものを友達と伝え合おう。			
目標	ゴール【Goal】	40字以内で書くこと	
1.	色の言い方になれ親しもう。	色 red, blue, green, yellow, pink, black, white, orange, purple, brown.	
2.	すきかきらいか伝える言い方になれ親しもう。	I like ~, I don't like ~.	
3.	すきなもののたすね方と答え方に慣れ親しもう。		
4.	友だちのすきな色やくだものを調べよう。		
単元を振り返って、できるようになったことや、喜んだこと、気付いたこと、工夫したことなどを書こう。			

＜振り返り内容の確認＞



＜デモンストレーション＞



＜イラストを活用した板書＞

外国語教育におけるUD化

- 活動の見通しをもたせるためのデモンストレーション
- 役割確認のためのイラスト

＜成果＞

- 国語科でインタビューの流れについて学んでいたため、1対1でのやり取りに集中することができ、インタビュー時に目線を合わせる意識が高まった。
- ふれあい月間との関連付けにより、友達の良いところの仕方よさに気づき、振り返りカードに記入する児童が見られた。

＜課題＞

- ▲デモンストレーションや中間評価では、内容だけでなくどのような態度や表情、口調で質問するとよいか意識付ける。

実践報告 第2学年 “Colors and Numbers”

活動の Goal 「カラフル数字をあつめて、10 を作ろう」

1年生の算数で勉強した「3つの数のたし算」の知識と、使ったことのある「色」と「数」の英語を関連付けて新しい活動を設定した。使った経験のある言葉を繰り返し使うことで、安心して活動に取り組めるよう計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- 言葉と言葉をつなげることで、新しい言葉を生み出す経験
- 「リアクションワード」でコミュニケーション力を向上



〈言葉と言葉をつなぐ〉

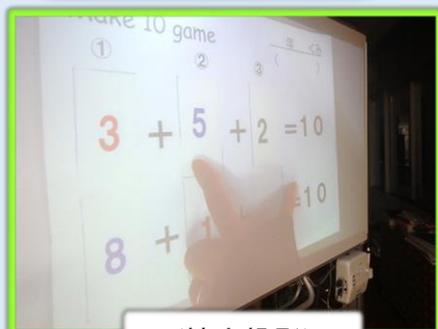


nice



good

〈リアクションワード〉



〈拡大投影〉

ICTの効果的な活用

- 活動をよりイメージしやすくするための拡大投影
- デジタル教材で正しい発音を確認

3

three

〈デジタル教材〉



〈既習事項〉



〈段階的な発話練習〉

外国語教育におけるUD化

- 既習事項を結び付け、多くの児童が自信をもって取り組める活動を設定
- 練習する相手を替えながら行う、段階的な発話練習

〈成果〉

- 既習事項を繰り返し練習したことで、自信をもって発話している児童が増えた。
- ALTの発音を聞いたり、ICT機器を活用したりすることで、聞こえた音をそのまま声にする練習ができた。

〈課題〉

- ▲児童の主体性を引き出すために、より必然性のある活動を設定する。

実践報告 第1学年 “My Name”

活動の Goal 「ALT にえいごをつかって、なまえをつたえよう」

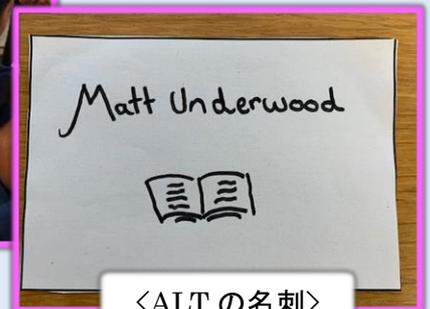
国語の授業で、名刺を作り友達と交換する活動を行った。本活動では初めて会った ALT と自己紹介をしながら名刺の交換をすることですすんでコミュニケーションに取り組めるような活動を計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- 日本語でも外国語でも、コミュニケーションにおいて大切なことは同じであることの確認
- 国語科「どうぞよろしく」との関連付け



＜友達との名刺交換＞



＜ALT の名刺＞

ICT の効果的な活用

- ALT の自己紹介を動画に撮影し、繰り返し音声を確認
- デジタル教材を活用した正しい発話練習



＜ALT による自己紹介を映像化＞

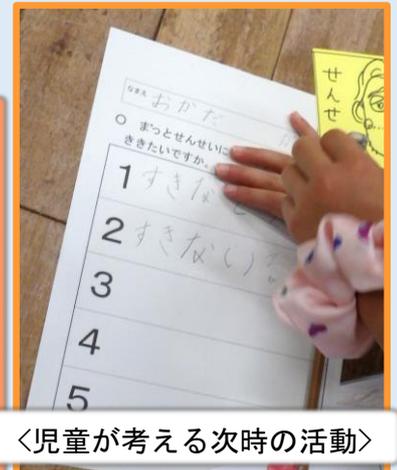
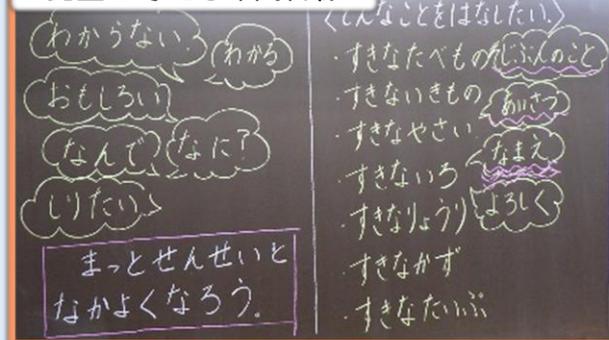


＜デジタル教材での発話練習＞

外国語教育におけるUD化

- 共通理解しやすくするためのシンプルな年間目標
- 各時間の目標を見童が設定

＜児童と考える年間目標＞



＜児童が考える次時の活動＞

＜成果＞

- 国語の授業を想起させたことで、挨拶をする際にアイコンタクトやスマイルなどが大切であることを児童から引き出すことができた。
- 児童と一緒に目標を設定したことで、学習計画に見通しをもたせ、目的意識をもって活動に取り組ませることができた。

＜課題＞

- ▲児童が ALT のことを知りたいと思えるように、出会いの場面をより工夫する必要がある。

実践報告 知的障害学級 “Foods and Drinks”

活動の Goal 「ハンバーガーセットを作ろう」

児童がよく知っている地域のお店を取り上げ、興味を引き出す。ハンバーガーセットを作りながら、日本語と外国語の違いに気付かせたり、コミュニケーションを育む素地を作ったりすることをねらいとして計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- ハンバーガーショップを想定し、売り手と買い手を意識させた活動設定
- 生活単元学習でのやり取りとの関連付け



〈やり取りの練習〉



〈他教科との関連付け〉

ICT の効果的な活用

- 言葉と動作を一致させるためのプレゼンテーションソフトの活用



〈プレゼンテーションソフトの活用〉



〈絵カード〉

外国語教育におけるUD化

- シンプルなルールのアクティビティを設定
- 単語を覚えきれていない児童に対するルール作り
- やり取りを把握させるための絵カード
- 具体物を使って操作しながらのやり取り



〈具体物を使ったやり取り〉



〈ハンバーガーセット〉

〈成果〉

- よく知っている地域のお店を取り上げたことで、興味が高まった。
- 教科でのやり取りの学習と関係付けることによって、やり取りに必要な表現、態度についての理解が深まった。

〈課題〉

- ▲日本語と外国語の違いに気付かせるために、プラクティスやデモンストレーションの場面を使って丁寧に指導する必要がある。

実践報告 肢体不自由学級 “Animals and Colors”

活動の Goal 「好きな動物や色を伝えよう」

大型絵本や色ビンゴを使って、楽しみながら動物や色の名前を学んだ。国語の授業での対話練習を生かして、相手意識をもって、ALTに自分の好きな動物や色を伝えることをねらいとして活動を計画した。

「言葉の教育」としての位置付け

- 知的障害学級と連携し、新たな関係を築くという目的をもたせた活動計画
- 相手意識をもって話を聞き、反応を返すことの確認



〈やりとりの練習〉



〈他教科との関連付け〉

ICTの効果的な活用

- 色や動物のみに焦点をあてるための拡大提示
- 色と動物を関連付けた電子書籍の活用やピクチャーカードの作成



〈デジタル教科書の活用〉



〈ピクチャーカード〉

外国語教育におけるUD化

- 識別しやすい色、手に取りやすい具体物を通じた体験的な学び



〈色ビンゴ〉



〈具体物を使ったやり取り〉

〈成果〉

- 国語科で対話学習や詩の音読を継続的に行ったことで、ALTに好きな動物や色を伝える際に必要な態度や表現を児童から引き出すことができた。
- 体験的な活動を取り入れたことで、児童が楽しみながら外国語に親しむ姿が見られた。

〈課題〉

- ▲積極的な発話につなげるために、ALTの発音や会話を聞く時間がもっと多く必要である。

外国語に親しむ環境づくり

校内掲示

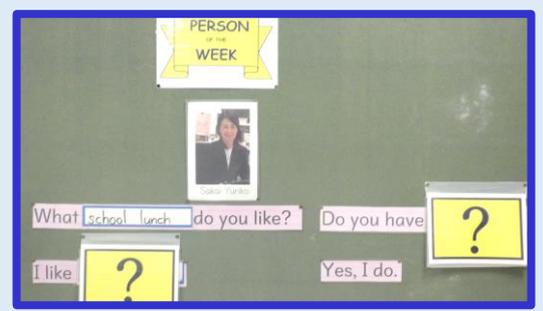
校内の様々な場所に外国語を掲示し、日常的に外国語に触れて親しむ環境を整備した。



階段



廊下



学年スペース

他教科等との関連付け

様々な教科や学校行事と関連させて単元を構成することで、教科等横断的な学習を行うことができる。



留学生との交流

A L Tだけでなく、近隣の留学生など、多くの外国の方と接する機会を設定した。

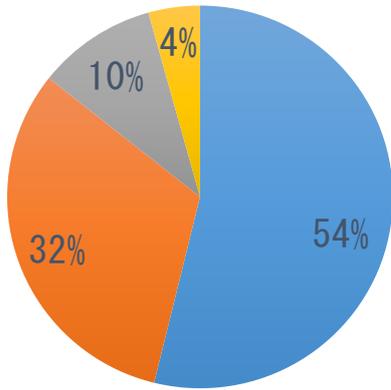


【 児童の実態と研究経過 】

(第3学年～第6学年)

○外国語の学習は楽しいですか。

平成30年 6月



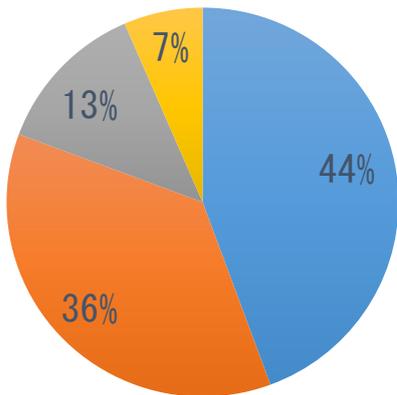
■楽しい ■どちらかといえば楽しい ■どちらかといえば楽しくない ■楽しくない

肯定的な回答 86% (楽しい54%)
否定的な回答 14% (楽しくない4%)

主な児童の意見

- < 肯定的な意見 >
- 先生やALTが話す言葉が聞き取れた。
 - 書くよりも話すことに重点を置いている。
 - 英語を話せるようになった。
 - 自分も英語を話せるようになりたいから。
 - 他国の言語を学ぶことができる。
 - 先生や友達とコミュニケーションがとれる。
 - ALTが優しく面白い。
 - 違う国の文化を知ることができる。
 - ゲームができる。
 - 外国に行ってみたいから。
 - 楽しみながら学ぶことができる。
- < 否定的な意見 >
- ▲毎回の活動が似ている。
 - ▲友達の声が聞き取れない。

平成31年 2月



■楽しい ■どちらかといえば楽しい ■どちらかといえば楽しくない ■楽しくない

肯定的な回答 80% (楽しい44%)
否定的な回答 20% (楽しくない7%)

主な児童の意見

- < 肯定的な意見 >
- 自分の考えが英語で言えると嬉しい。
 - 新しい表現を知ることができる。
 - 新しいことを1から知ることができる。
 - 覚えることや分かろうとすることが面白い。
 - 外国の人と関わることができる。
 - 自分とは違う価値観が知れる。
 - 将来の役に立つ。
- < 否定的な意見 >
- ▲話している内容が分からない。
 - ▲分からない言葉が増えてきた。
 - ▲ゲームのルールが難しい。
 - ▲上手く伝えられない。
 - ▲説明にもっと英語を使ってほしい。
 - ▲簡単で、みんなの話すスピードが遅い。

研究の方向性を決めるにあたり、児童の実態をつかむことから始めた。研究スタート時の調査では、肯定的な意見としてコミュニケーションの楽しさを挙げている児童が多く見られた。否定的な意見を答えた児童もコミュニケーションの楽しさに気付くことで、すすんで学習に取り組む児童が増えるのではないかと考え、研究主題を「外国語に慣れ親しみ、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」とした。

しかし、研究1年目の年度末のアンケートでは、肯定的な意見をもつ児童が6月時点より減り、知識・技能面で物足りないと考えている児童、不安を抱え自信を無くし楽しくないと考えている児童が増えていた。2年目を迎えるにあたり、どのような場面や活動でつまずきがあるのか、詳しく実態の調査を行うことにした。

令和元年5月 児童の実態調査（第3学年～第6学年）

相手の話や考えをきくことは好きですか。

相手の話や考えを聞いて「自分と同じ・違う」「なるほど」などと思うことはありますか。

	外国語の授業	学校生活の中
肯定的意見	82%	89%
否定的意見	18%	11%

← 差がある! →

	外国語の授業	学校生活の中
肯定的意見	84%	91%
否定的意見	16%	9%

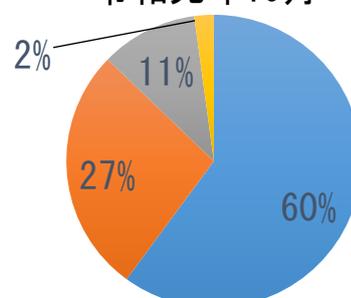
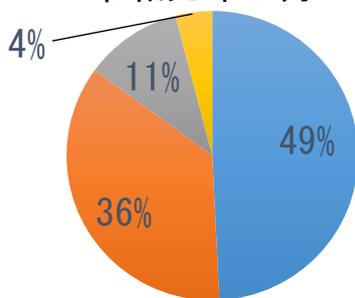
← 差がある! →

調査の結果、外国語で聞く活動において、つまずきがある児童が多いことが分かった。コミュニケーションを成り立たせるために、まず聞き手を育てることが重要だと考えた。真摯に聞こうとすると、話し手も内容を伝えようと言語材料を選択するなど、思考を伴うコミュニケーションになる。質問を繰り返しながら、相互理解につながる体験が楽しさにつながると考えた。また、このような言語活動を何度も経験することで、知識・技能の定着にもつながると考えた。そこで、副主題「主体的な聞き手を育てる言語活動を通して」と付け加え、研究主題に迫るための3つの取組(*P2参照)を再確認した。

令和元年5月

対象 第3学年～第6学年

令和元年10月



■ 楽しい
■ どちらかといえば楽しい
■ どちらかといえば楽しくない
■ 楽しくない

■ 楽しい
■ どちらかといえば楽しい
■ どちらかといえば楽しくない
■ 楽しくない

肯定的な回答 85% (楽しい49%)
否定的な回答 15% (楽しくない4%)

肯定的な回答 87% (楽しい60%)
否定的な回答 13% (楽しくない2%)

児童の主な意見

< 肯定的な意見 >

- 外国の人に道案内はできるようになった。
- たくさんの外国語を話すことができる。
- 英語を通して、友達の思っていることを知ることができる。
- 日本と違う文化を発見できる。
- アクティビティを楽しみながら、外国語が学べる。
- 友達に質問したり、答えたりすることが楽しい。
- あまり話さない友達とも関わることができる。

< 否定的な意見 >

- ▲話している内容が分からない。
- ▲楽しいけれど、発表で英語を使うことは難しい。
- ▲リーディングやライティングもやりたい。
- ▲もう少し難しい内容を学習したい。

研究2年目の10月には、全学年で外国語の授業が「楽しい」と答えた児童の割合が増えた。できることが増えること（知識及び技能）、友達やALTとコミュニケーションを図れること（思考力、判断力、表現力等）、外国の文化や友達のことを知れること（学びに向かう力、人間性等）などで、児童が外国語の授業を「楽しい」と感じていることが分かった。

否定的な意見の多くは、知識及び技能に関することだった。また、友達やALTとコミュニケーションを図ることについては、否定的な意見はなかった。しかし、「内容が簡単すぎる・もっと難しいことを知りたい」といった意見も少なくなく、児童の知識及び技能に大きな差があることが分かった。

研究の成果について

目指す児童像（P1 に詳細）について

(1)外国語に慣れ親しむ子

- ・学習を通して、生活の中にも外国語が使われていることに気付き、外国語に対する興味や関心の高まりが見られた。外国の文化や外国の人の考えを知ること、相手の考えや気持ちを受け止め、関係をよりよくしようとする姿が見られるようになった。

(2)コミュニケーションを図ろうとする子

- ・児童が気持ちや考えを伝えたいような単元や場面設定を意識することで、コミュニケーションを楽しんだり、相手意識をもって伝え合おうとしたりする姿が多く見られた。

(3)すすんで学習する子

- ・外国語がコミュニケーションツールになってきており、授業以外にも ALT と関わろうとする児童が増えた。
- ・表情や言動から相手の気持ちを考えようとする姿が見られた。

研究主題に迫るための3つの取組（P2 に詳細）について

①「言葉の教育」としての明確な位置付け

- ・分からない表現が出てきても、知っている言葉をつなげたり、シチュエーションから推測したりする児童が増えた。
- ・「内容が伝わる音声化」を意識させたことで、ALT や留学生に自分の思いを伝えることができ、「もっとこんなことを話したい。」という意欲を引き出すことができた。

②ICT 機器の効果的な活用

- ・タブレット PC や書画カメラを使うことで見通しをもたせることができ、外国語に苦手意識をもっていた児童でも安心して活動に取り組む姿が見られた。
- ・教材や教具の工夫、ICT 機器の活用によって児童が興味や関心をもてるように場面設定をすることで、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童が増えた。

③外国語教育におけるユニバーサルデザイン化（UD化）の推進

- ・行事や身近な施設の写真を使用したことで意欲や関心を引き出すことができた。
- ・単元や活動のためのデモンストレーションを行うことで、児童に学習の見通しをもたせることができた。
- ・「どの子も」というユニバーサルデザインの視点を学校全体で確認したことで、他教科や行事、生活の中で外国語と関連付けようという教員の意識が高まった。

今後の課題について

- ・外国語活動、外国語科だけでは、外国語や外国の文化、日本の文化に関心をもったり、じっくり考えたりすることに限界があるので、他教科と関連した年間計画となるよう見直す。（カリキュラム・マネジメント）
- ・コミュニケーションの目的を達成するために、学校や地域の特色を生かした必然性、活用性のある単元をさらに開発し、設定する。
- ・外国語活動、外国語科は知識や経験の個人差が大きく、苦手意識をもつ児童もいることから、外国語活動、外国語科における UD 化を一層すすめる。慣れ親しむ機会を増やすために、低学年の時数の確保と低学年から高学年まで系統的な指導計画の作成、学校全体での朝学習の時間や外部人材の活用など、学校独自の取組も推進する。

あ い さ つ

武蔵野市教育委員会教育長 竹内道則

グローバル化が急速に進展する時代の中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力を向上させていくことが求められています。

このような社会的変化を踏まえ、市教育委員会としても、現在策定中の「第三期武蔵野市学校教育計画」の重点的な取組に「英語教育の充実」を掲げています。今後、英語科の授業力向上や日頃から英語とふれ合う教育活動は、一層重要となります。

こうした中、大野田小学校は「外国語に慣れ親しみ、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～主体的な聞き手を育てる言語活動を通して～」を研究主題に、平成30年度からの2年間、精力的に研究に取り組んでこられました。

児童に「互いを理解するコミュニケーションの楽しさに気付いてほしい」と願い、自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる言語活動を設定して、授業改善に努めてこられました。その成果であるリーフレットや指導案集は、各学校の外国語・外国語活動の質の向上に大きく寄与するものです。

結びになりますが、本校の研究を御指導くださいました文教大学教授金森強先生をはじめ関係の方々には御礼申し上げますとともに、藤橋義之校長をはじめとする大野田小学校の教職員の皆様の御努力に敬意を表し、あいさついたします。

お わ り に

武蔵野市立大野田小学校 校長 藤橋 義之

人生100年時代という高齢化とともに、グローバル化や国際化、人工知能の飛躍的な進化など予測がますます難しい時代に突入したとも言われています。そのような変化の激しい社会の中で、児童がより良く生きるためには、母語（日本語）とともに外国語によるコミュニケーション能力の育成が重要視されています。

本校では平成30年度から2年間にわたり、外国語活動（英語）に焦点を当て武蔵野市教育課題研究開発校として研究をすすめてきました。すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童を育てるために、昨年度は授業スタイルの確立と単元計画の作成を中心に、今年度は主体的な聞き手を育てる言語活動を通して研究実践を重ねました。2年間の実践により、少しずつではありますが児童の変容が表れ、外国語への興味・関心が深まり、よりよいコミュニケーションによる対話的な学びが見られています。同時に、教員の外国語活動における授業改善への意欲も高まり、本質をとらえる授業について本気で考え追究する姿が見られました。このような児童や教員のよりよい変容や姿こそが研究の成果であると考えます。本日はその取組を報告させていただきます。本校の研究実践が市内の外国語教育の向上に寄与し、少しでも皆様の参考になれば幸いです。

結びになりますが、これまで親身にご指導いただきました文教大学教授 金森 強先生、世田谷区英語教育推進アドバイザー 山本恵美子先生をはじめ武蔵野市教育委員会、関係する全ての皆様に心より御礼申し上げます。

研究でお世話になった講師の先生方（五十音順）

平成30・31年度	金森 強 先生	(文教大学 教授)
	山本 恵美子先生	(世田谷区英語教育推進アドバイザー)
	中島 裕人 先生	(武蔵野市教育委員会 指導主事)
平成30年度	粕谷 恭子 先生	(東京学芸大学 教授)
	高橋 純 先生	(東京学芸大学 准教授)
	吉村 達之 先生	(三鷹の森学園三鷹市立高山小学校長)
	高丸 一哉 先生	(武蔵野市教育委員会 指導主事)
	野々村 麻奈先生	(武蔵野市教育委員会 指導主事)